

## 事業番号3：再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業のうち再生可能エネルギー設備導入事業

### 評価者のコメント（コメントシートに記載されたコメント）

---

#### 【事業の課題・問題点等】

##### ＜事業の実施方法について＞

- アウトカム目標（CO<sub>2</sub>排出削減見込み量及び1t当たりのCO<sub>2</sub>削減コスト）の達成は見込めない。
- コスト高が自立的普及の妨げになっているのであれば、補助金以外の政策手段に目を向けるべきではないか。
- バイオマス熱、地中熱、太陽光発電の光熱費削減効果や投資回収年数が資料では明らかにされておらず、事業の評価が難しい。CO<sub>2</sub>削減効果や費用対効果だけではわかりにくい。

##### ＜事業のコストについて＞

- CO<sub>2</sub>の削減コストが高すぎる。

##### ＜事業の横展開について＞

- 採択事例の横展開（他自治体等への波及）が見通せない。
- 補助がなくなった後の自立的普及が進むのか疑問。
- 普及が十分ではなかったのではないか。
- 普及策が他にも必要ではないか。

#### 【改善の手法や事業見直しの方向性】

##### ＜事業の実施方法について＞

- 再エネ種類別に、補助を続けるべきかどうか見直すべき。
- 熱利用などのFITでカバーできていない再エネに対象を絞るべき。
- 太陽光は補助対象から外す方がよいのではないか。
- 病院や介護施設などに的を絞って、地中熱ヒートポンプの普及を図ったらどうか。
- マーケットを飛躍的に拡大し、コストを下げるには、補助金以外の「しくみ変更」「制度変更」によるインセンティブを創出し、民間投資を呼び込むしかないのでは。
- FITと本事業の補助の効果の違いを検証する手もある。
- 政府としてあるべき政策を他省庁も交えて、まずしっかりと制度設計すべき。

### 《事業のコストについて》

- CO<sub>2</sub>削減効果の大きいものから優先的に予算を割りあてるべき。将来のコスト低下も織り込んだCO<sub>2</sub>削減効果の見積もりが必要。
- この事業によって導入コストが下がっていくことは考えにくい。CO<sub>2</sub>削減コストだけを考えると本事業の実施の可否を判断すべき。
- 需要サイドに向けた利用の喚起だけではなく、再エネ市場の拡大と合わせて供給サイドに向けて生産コストを下げる努力＝イノベーションを求めていくべきではないか。

### 《事業の横展開について》

- 横展開の方法として積極的に情報発信すると提案されているが、情報発信のみでは困難と考えられる。したがって、導入する場合のインセンティブを与えるような方法も検討すべき。
- 2020年度以降は、取組みの地域差が見える化させ、取組みの遅れている地域へ対応を促すことも考えられる。
- 地中熱の諸外国での普及ぶりと日本との差を見ると、諸外国の政策をよく研究すべきではないか。
- 長期にわたる補助金継続が予定されているが、そもそも「自立的普及」を目指すのであれば、ナッジを含めて出口戦略を考えるべき。
- 横展開の実現可能性について、外から見る場合には、投資回収年数などの情報があると参考になる。例えば、地中熱利用だけ費用対効果の低さが突出しているが、どこに原因があるのかが見えにくい。更新投資にかかる費用も大規模なのではないか。

## 評価結果

---

### 事業全体の抜本的改善

(廃止：0人、事業全体の抜本的改善：3人、事業内容の一部改善：3人)

### とりまとめコメント

---

- ・ このままではアウトカムの達成は見込めないのではないかと。
- ・ CO<sub>2</sub>削減コストが高すぎる。本事業をこのまま継続してもコストが下がるのは考えにくい。
- ・ 補助事業を継続するだけでは、横展開が見込まれないのではないかと。
- ・ 再エネ種類別の補助実施有無の見直しや、再エネが普及している諸外国における政策との違いの調査・検討などを行い、本事業のあり方を見直すべきではないかと。